

令和6年度第1回平塚市文化振興懇話会会議録

【日 時】 令和6年7月23日（火）10:00～11:30

【会 場】 中央公民館3階 大会議室

【出席者】 構成員7名（敬称略）：沖野成紀、丸島隆雄、平野恵美子、木村一彦、
岩崎由紀子、加藤宏、高橋孝祥
市職員4名（事務局）：小峰市民部長、柴崎文化・交流課長、
武井文化振興担当長、荒原主管
傍聴人：なし

会議次第

1 開会

2 市民部長あいさつ

3 参加者紹介

4 座長・副座長の選任

座長（沖野氏）、副座長（平野氏）が選任された。

傍聴人の確認

傍聴希望者がいなかったことを事務局から座長へ報告した。

5 議題

（1）平塚市文化芸術振興計画の中間見直しについて

○事務局説明要旨

・資料（1）（2）（3）に基づき説明

●中間見直しのスケジュールについて

・4月から5月に市民アンケートを実施し、その分析結果を踏まえた中間見直しの素案を作成した。6月26日、7月9日に庁内検討会議で議論し、修正した素案について、本日の文化振興懇話会で報告する。11月1日からはパブリックコメント手続きを行い、その結果を踏まえた修正を経て、令和6年度内に中間見直し版を策定する。

●中間見直しのポイントについて

・主な見直しのポイントは、「第1章、第5章の市民アンケート結果・分析の更新」、「第2章の成果指標への実績値の掲載と、一部指標の令和10年度目標値の上方修正」、「第3章の具体的な取組への1事業の削除と3事業の新規掲載」である。

・その他、社会状況や、国、県、本市の取り組みなどの変化等に伴う情報や文言の整理を行った。

●第1章計画の策定にあたって 6 市民アンケート分析結果

- ・令和2年度の調査と令和6年度の調査を比較する形で分析した。
- ・5つの課題と対策については、対策の効果もあり、一部課題について数値が向上したり、一時的に課題が解決したように見えるものもあるが、引き続き本計画期間においてその効果が表れることを期待して、当初の課題を踏襲して、長期的視点で更にその対策に取り組む。

●第2章 5 成果指標

- ・令和6年度市民アンケートの結果から各指標の中間値に実績値を掲載した。「本市は文化芸術が盛んなまちだと思ふ人の割合」については、中間の目標値（37％）を1％上回ったため、令和10年度の目標値を40％から42％に上方修正する。

●第3章 具体的な取組

- ・「市民団体との協働による着地型観光の推進」は令和4年度で事業が終了したため削除した。
- ・新たに「サッカー文化の振興によるまちづくり事業」、「SNSによる文化芸術に関する情報発信の強化」、「子どもを対象とした絵画等コンクールの実施及び展示」の3事業を追加した。

●第4章 推進体制

- ・変更なし

●第5章 参考資料

- ・中間見直しの経過としてパブリックコメントまでの会議を掲載した。
- ・アンケート結果を令和6年度の調査の結果に更新した。

○質問・意見等

構成員：アンケート回収率が33.7％とのことだったが、他のアンケートと比較して高いのか低いのか。

事務局：市が実施する市民アンケートでは3割強の回収率が多いという印象である。本計画の策定時のアンケートでは40％を超えていたので、それくらいを期待していたが届かなかった。前は紙回答のみであったが、今回は電子回答と紙回答を選ぶようにしたが、回収率は下がってしまった。実施時期が4月から5月ということで新年度の忙しい時期で回答が減ったのかもしれないが、確実な理由については分からない。

構成員：素案について、今回変更点は赤字で表記しているが、庁内の検討時には見え消しにしたりしていたのか。

事務局：庁内の検討においても今回と同様に赤字で変更点を記載している。電子会議なので当初計画と見比べて検討した。

構成員：市民アンケートは無作為抽出3,000人に送付しているが、実際に文化活動をしている人に意見を聞くことができないのか。

事務局：市民アンケートは無作為抽出が一般的である。文化活動をしている方の意見を取り入れるのであれば、市民アンケートとは別の形でお聞きすることは可能である。この文化振興懇話会もその一つとして位置づけられる。

構成員：例えば学校とかにアンケートを取ることも良いのでは。

事務局：今後の参考にさせていただく。

構成員：アンケートの設問について、聞き方によって回答が変わることもあると思う。例えば、伝統芸能等の活動をした人が 10 代、30 代で 0 % だったが、お祭りのおやはしなども含まれるとしていれば、0 %ではなかったのではないかと思う。

事務局：ご指摘のようにお祭りのおはやしをしているが、伝統芸能とは思っていないで回答していない方もいるかもしれない。次のアンケートでは設問の聞き方について工夫していきたい。

構成員：「市民団体との協働による着地型観光の推進」は元々令和 4 年度で終了する予定だったのか。令和 4 年度の進捗状況では、プログラムが増えて期待が持てるとあったが、なぜ終了するのか。

事務局：この事業は、提案型協働事業で実施した事業で、制度上 3 年間時限的に実施する事業である。その後も続く事業もあるがこの事業は市の予算で実施する形は終了することとなった。

構成員：図書館アウトリーチサービス事業は事業名を変更したとのことだが、むしろ分かりにくくなった印象がある。

事務局：予算事業名が変わったため変更した。他計画や市のホームページなどで掲載する事業名とそろえた。

構成員：市民アンケートを受けて、新規に加えた事業はあるか。

事務局：「SNS による文化芸術に関する情報発信の強化」は市民アンケートで SNS での情報取得が増えていることから新規に取り組む事業である。それ以外の新規事業 2 事業は各課からの提案で新たに加えた事業である。

構成員：アンケート回収率 33.7%は低いと思う。回収率を上げる工夫が必要ではないか。

事務局：アンケート回収率の向上は全庁的な課題でもある。設問数が多いので回答が大変ということもある。またネットのみでのアンケートとなると回答できない世代もあつたりする。今後庁内でも回収率向上に向けて検討していきたい。

構成員：経済界のアンケートでも 36~40%の回収率が多い、それは設問数が少なくでである。ただ回収率が高くなればより多くの意見を取り入れられるので、回収率を高められるように工夫してほしい。

構成員：本市は文化芸術が盛んなまちだと思う人の割合はもっと増えてほしい。自分は文化芸術が盛んなまちだと思っている。せっかく文化芸術ホールもできたので色々な方に使って頂いて、盛んなまちだと思う方が増えるといい。

事務局：前回アンケートよりは盛んだと思う人の割合が増えてはいるが、もっと増えるようにしたいと考えている。様々な文化施設を使っただき、本市の文化芸術活動を知っていただきたい。

構成員：アンケート分析結果で取り上げている伝統芸能はどこまでの範囲か。古典芸能も含まれるのか。文化連盟所属団体でも、能や三曲など古典芸能の団体は高齢化が進み団体の存続が危ぶまれている。

事務局：古典芸能も含まれている。まちづくり財団で能・狂言の事業を実施していたり、文化芸術ホールでも落語などの文芸の公演を実施している。社会教育部で文化祭なども実施しているので、そういった取り組みを継続していきたい。

構成員：伝統文化として、前鳥座や田村ばやしを例示しているが、七夕太鼓というのも聞いたことがあるが、活動は続いているのか。

事務局：相州七夕太鼓保存会は今も色々なところで出演されている。本計画では全ての団体は掲載できていないが、色々な団体が活動していることは承知している。

構成員：各団体にとって、育成は大事だが、どうやって興味を持ってもらうかが重要となる。例えば友好都市の花巻市では市から伝統芸能の団体へ補助をしていると聞いたことがある。平塚市では補助をしているのか。

構成員：市の無形文化財に指定されている団体には市から補助がある。

構成員：ぜひ伝統芸能に対して市からの積極的な支援がなされるといい。

構成員：アンケートの本市の魅力では、七夕まつりが断トツで1位となっていて、自分も関わっているのが嬉しい。また、美術館はもっと多くの方が魅力に思ってもいい施設だと思う。

事務局：平塚は七夕が魅力とを感じる方は多く前回アンケートでも1位であった。

座 長：美術館については、多くの自治体等でも良い企画があり、注目を浴びるのが難しい状況もある。一方で七夕まつりは、日本三大七夕まつりの一つとして有名なお祭りなので、もっと市のPRなどとして活用できるのではないかな。現在は3日間のお祭りとなっているが、1週間とか関連イベントなども実施してもっと有効活用していくべきではないかと思う。文化芸術ホールや見附台公園を活用して実施するのも良いのでは。

構成員：美術館については、本市の魅力として感じているのは33%であるのに対して、利用したことがある人は63%である。利用したことがあるけど、魅力とまでは感じていない人が多いのは、施設の老朽化などもあるだろう。

構成員：七夕まつりもそうだが、囲碁まつりも、遠くは北海道などからも来場されるイベントで平塚のPRにつながるまつりだと思う。

事務局：囲碁まつりは、プロ棋士が70名以上参加して対局できるイベントで、全国でも珍しい。今年は日本棋院創立100周年、木谷實先生の数え年で没50回忌となる年でもあり、そういった点も踏まえてイベントの企画をしている。毎回遠くからご参加いただく方も多くいるが、今年も多くの方に来場してもらいたい。

構成員：成果指標について、「本市は文化芸術が盛んなまちだと思う人の割合」が当初34%から中間値で38%と伸びたことは大変喜ばしい。これは所管課の努力や、新たに開館した文化芸術ホールの効果もあると思う。当初の目標はどのレベルで設定したのか、届くのは難しい高い目標だったのか、ある程度達成が可能な範囲で高く設定した目標か。

事務局：文化施設を利用したことがある人の割合は既に高いのでこれを引き上げていくことは難しいと考えているが、基本的には達成可能な範囲で高い目標値ということで設定した。

構成員：当初の設定については理解した。全体の成果指標は、中間値の目標値を超えて令和10年度の目標値を上方修正したことは喜ばしいことだと思う。上方修正後の目標値は42%ということだが、当初目標値が95%、30%、70%、40%と切りのいい数値としているのに、今回は45%とかではなく42%としたのは届くか届かないかのラインということで設定したのか。

事務局：中間値を1%超えただけなので、現状維持の40%のままとするという事も検討したが、令和2年度から令和6年度の伸びが4%だったということで現実的な目標値かつ高い目標値として設定させて頂いた。

構成員：どういった議論で設定したかを確認させてもらった。一般的に目標値は過度に難しくても簡単でも良くないとされている。そういった観点も検討しての数値なのであればよいと思う。

座長：高くなった数値をさらに上げるのはより難しいことである。そういった意味ではこの4年間で4%上がった数値を、次の4年間で更に4%上げるという目標は簡単な目標でなく、達成可能で高い目標設定だと思う。

構成員：中学校演劇部の発表会が7月27日（土）に中央公民館の大ホールで開催される。また、吹奏楽部も、昨年度までは秦野のホールが会場だったが、今年度は7月25日（木）にひらしん平塚文化芸術ホールで西湘吹奏楽連盟のコンクールが開催される。小中学校の年代から素晴らしい施設で演奏や発表できる機会があると、若い世代の文化芸術への関心が高まることにつながると思う。そういった活動がもっと簡単に会場を借りられたり、行き帰りの交通面も含めて補助が出るとかになると良いと思う。学校によっては合唱コンクールを実施しているが、街中でない学校は移動の課題がある。せっかくの立派な施設を、多くの子どもたちが利用できるようなといいと思う。

事務局：簡単に利用できるように、補助もあるといいとの意見であったので、担当課にも伝えたいと思う。

構成員：アンケートに戻るが、本市の魅力で商業が7%と低い。商業のまちと言われた平塚なのになってしまう。現在は梅屋の建替えなどもあり、まちなかも変わってくることを期待している。

座長：これまでの意見をまとめる

- ①アンケート回収率についての質問があった。また、回収率を向上させる必要があるという意見があった。
- ②本市は文化芸術が盛んなまちだと思う人の割合が増えるように努力をしてほしいとの意見があった。
- ③アンケートの設問の聞き方について、工夫が必要との意見があった。
- ④アンケート以外でも文化活動をしている人の意見も聞く必要があるとの意見があった。
- ⑤アンケート結果から新規に掲載した事業が1事業あることを確認した。
- ⑥古典芸能団体の高齢化の課題の報告と、伝統芸能への若い人への関心を高める取り組みが必要という意見があった。

- ⑦七夕まつり、囲碁まつりの活用やPRを推進すべきとの意見があった。
- ⑧成果指標の目標値の設定の考え方について確認した。
- ⑨中学校や文化部での文化施設の利用について、簡単に利用できる方法や移動等への補助の要望があった。

座長　：以上で議事を終了する。

6　事務連絡

7　閉会